

保育計画成果報告書

法人名	学校法人 滋慶学園
施設名	にじのいるか保育園 芝浦
報告者（役職）	仁井 友紀乃（園長）
住所・連絡先	東京都港区芝浦 2-3-31 第二高取ビル 2階
	☎ 03-6435-3804
	E-mail info@nijinoiruka.jp

○タイトル（保育計画）

おはなしで育む「身体力」「創造力」「コミュニケーション力」 絵本で繋ぐ「家族の絆」

○主な助成備品

絵本・大型絵本・紙芝居（162タイトル・655冊）

1. 保育計画策定の目的

「あなたの思い出に残る絵本やおはなしは何ですか？」

1冊の絵本やおはなしには、そこから生まれた無限の思い出や想いが溢れています。

おはなしの内容、絵本のイラスト、そして一緒に絵本を読んだ保護者の方や保育園・幼稚園の先生との思い出……。子ども達にとってかけがえのない「おはなし」を通して、保育目標である「身体力」「創造力」「コミュニケーション力」を育んでいくことを目的として保育計画を策定しました。

また、保護者の方は就労等で忙しく、家へ帰ってから家事などで忙しい毎日過ごす中で、子どもとどう関わっていいか悩む保護者の方も多くなっています。忙しい中にも、親子で絵本を読む時間を通して親子の触れ合いの時間を持って欲しい。まずは絵本と一緒に見る時間から親子の関わりをもってみてはいかがでしょうか。そうした園の思いもあり、絵本の貸し出しを行いたいと考えました。絵本1冊を読む時間は、約10分程度。この10分が、忙しい保護者の方と子ども達にとって、触れ合い会話をする時間となり、子ども達が愛されていること・大切にされていることを実感し、自己肯定感を持つことができることを心から願い、家庭支援の一環として取り組んでいます。

2. 具体的な実施内容

【おはなしメニュー】

月に1回、食育と絵本などの「おはなし」を結んだ「おはなしメニュー」を献立に取り入れています。「おはなし」を通して食への興味を育て、食べる楽しさを知り、食べる意欲を育んでいます。



絵本「おべんとうバス」



献立「“おべんとうバス” おべんとう」

卵焼きは卵の代わりに南瓜を、エビフライはエビではなく人参とあらで調理するなどの工夫をして、アレルギー食材を可能な限り使用せずに調理しています。



絵本「おばけかぞくのいちにち」



献立「“おばけのたろぼう” ハッシュドポーク」

顔のパーツは、子どもたちが自由にデコレーション！
色々な表情の「おばけのたろぼう」が出来上がりました。

【 絵本の貸し出し 】

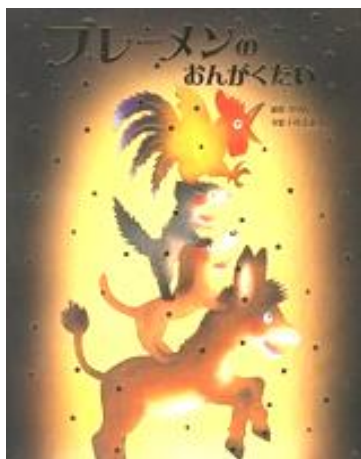
ご家庭への絵本の貸し出しを家庭支援の一環として実施しています。
絵本コーナーを前に保護者の方と子どもの関わりはもちろんのこと、保護者の方同士の関わりも生まれ、家族間の交流が多く見られています。



【 発表会 】

各クラス「絵本」をテーマに発表会を行いました。

絵本の内容を実際に演じることで、「おはなし」への興味が深まりました。



絵本「ブレイメンのおんがくたい」



劇「ブレイメンのおんがくたい」



絵本「てぶくろ」



劇「てぶくろ」

3. その成果と評価

読み聞かせはもちろんのこと、食育や行事など保育園生活において要所に「おはなし」を取り入れたことで、子どもたちの「おはなしの世界」への興味が育まれました。

絵本や紙芝居が増えたことで、子どもたちも「おはなし」への興味が広がり、「絵本を読みたい！」と日々、意欲的に絵本や紙芝居を選んで読んでいます。毎日違う絵本を選ぶ子ども、お気に入りの1冊を選ぶ子ども、電車がテーマの「おはなし」を選ぶ子ども、紙芝居がお気に入りの子ども、シリーズ読破を目指す子どもなど、絵本や紙芝居の選び方や選ぶ「おはなし」の内容にも個性が見られるようになりました。

お迎え時には、保護者の方と一緒に絵本や紙芝居を選ぶ姿が多く見られ、時には保護者の方に読んでもらうだけでなく、保護者の方に読み聞かせをする姿も見られています。文字が読めない小さな子どもも、保育者の読み聞かせの内容を覚えていて、言葉のひとつひとつを思い出しながら一生懸命に自分が大好きな「おはなし」の世界を保護者の方に伝えようと絵本や紙芝居の読み聞かせをしています。

絵本などの「おはなし」を通して、聞く力、言葉の習得、創造力、思いやりの気持ち、自分の好きなものへの興味を育み、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしながら、成長へと繋がっています。



4. 今後の課題と展望

当園では、絵本や紙芝居の貸し出しの際に、個人の図書カードを使用しています。

日々の忙しさの中でご家庭の状況や事情を思うと難しさもあるかと思いますが、毎日のように絵本を借りて図書カードの枚数が増えていくご家庭もあれば、図書カードが未使用のままのご家庭もあります。

絵本を借りることは、読み聞かせを通して関わりを深めることだけでなく、生きるちからを学ぶ機会にも通じます。保護者の方がお手本となって、絵本を大切に扱うことで物を大切に思うところを、背表紙が見えるようにきれいに並べて片付けることで次に借りる人への思いやりを育むことになり、子どもの成長へと繋がります。こうしたねらいをご家庭に周知し理解してもらうために、園としてどうご家庭と関わり、情報発信していくかが今後の課題となっています。

最近では、地域の方から使わなくなった絵本をいただくこともあり、少しずつ絵本が増えていますが、子どもたちの「絵本が読みたい！」という意欲はまだまだ尽きません。今後も「おはなしの世界」を通して子どもたちの成長を育むために、定期的に絵本や紙芝居を購入し増やしていく予定です。

また、テーマや年齢に合わせた絵本の選定や読み聞かせの技法など、研修等で職員の学びの機会を設け、子どもたちだけでなく職員にも「おはなしの世界」を広げて欲しいと考えています。

以上